

いわき総合高等学校 JRCインターアクト部

高校生ボランティア・アワード2023

「震災と復興を未来へつむぐ探究活動」

活動概要

2011年、3月11日に発生した東日本大震災により、福島県は甚大な被害を受けました。私たちは震災の教訓を学び、未来の浜通りを作るため、福島県浜通りの復興と今後について考え、発信し、福島県浜通りの風評被害をなくしていくことを目指しています。

(1) 探求活動のための研修

2022.9.29 「東日本大震災・原子力伝承館」での研修(福島県双葉町)
フィールドワーク(大平山公園・双葉駅前等)→語り部講話→館内展示見学
→ワークショップ(意見交換)
2023.6.15 「いわき震災伝承みらい館」語り部講話受講

(2) 探求のテーマ

A班:復興の課題は、ALPS処理水と廃炉の処分案を考えていくこと。
B班:復興の課題は、浜通りの環境の安全性を人々に知ってもらうこと。
C班:復興の課題は、浜通りの観光魅力を多くの人に知ってもらうこと。

(3) 探求活動の手順

- ①復興の動画視聴や伝承館研修、自分の経験などから、自分が探求したいテーマを決める。
- ②似たようなテーマの仲間たちと集まり、3つのグループを作る。
- ③グループで話しあい、各班で探求のテーマを決める。
- ④役割分担をし、現状分析、問題点発見、原因・背景、解決策などについて情報を調べる。
- ⑤まとめた内容について、結論や考察について話し合う。
- ⑥グループで役割分担しパワーポイントのスライドを完成させる。
- ⑦グループで各スライドの発表者を決め、発表の練習をする。
- ⑧校内で発表する。質問を受け付ける。
- ⑨内容をさらに調査・精選し、わかりやすく構造紙にまとめる。
- ⑩構造紙やパワーポイントを用いて、課題研究発表会や社会貢献活動コンテストなどで発表する。
- ⑪探究活動を通して県内外の高校生と交流する。

(4) 探求活動の感想



「調べる」活動では、根拠を明確にすることが大切だと分かった。官公庁の資料をできるだけ使った。
(1年男子)

プレゼン発表では、「聞き手」の関心を引くために声やスピードにメリハリをつける必要がある。
(2年女子)



「どうする?いわきっ子」

活動の目的・志など

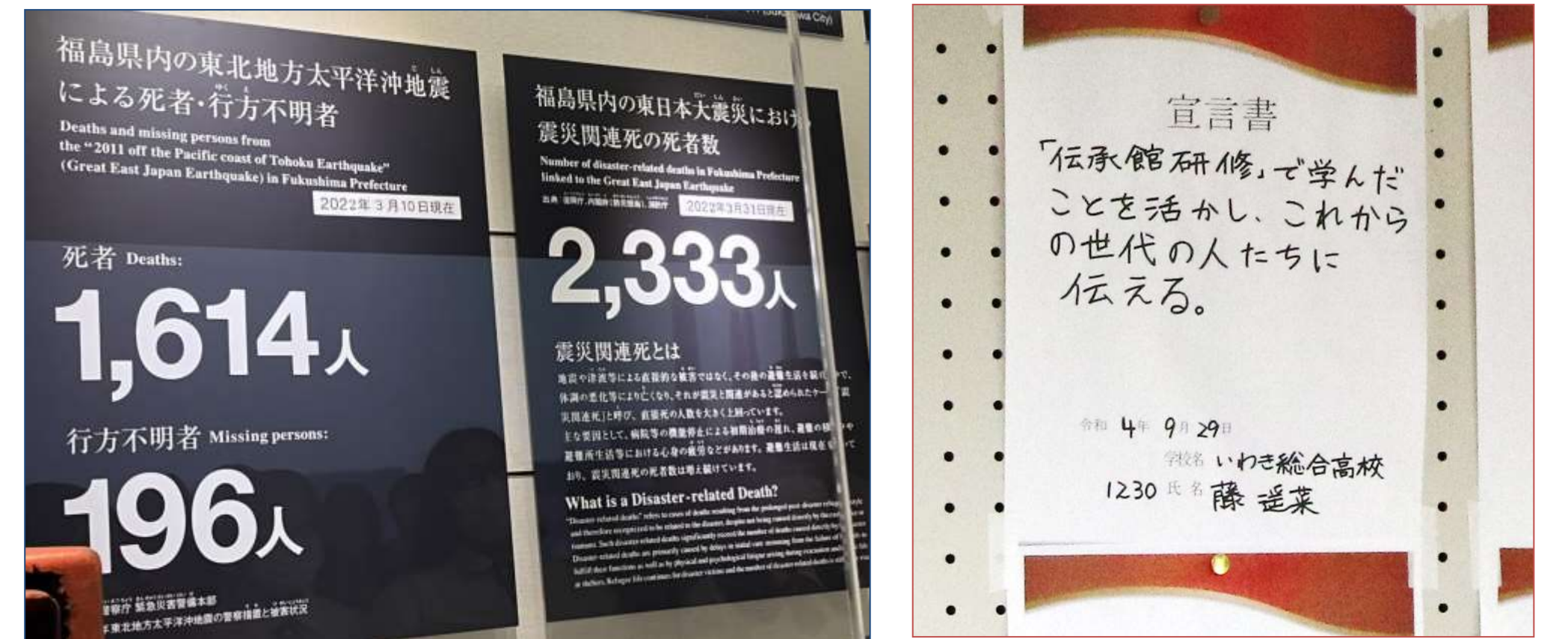
震災から12年たっても福島県の風評被害は続いています。このまま何もせず大人になっていくのはちょっと違うと感じたのが、活動のきっかけです。

まずは、震災や風評被害、福島県の過去と今について、知識が乏しかったことに気づき、「知る・調べる」ことから始めてみようとなりました。

調べ始めると、難しい問題だということに気づきました。背伸びせず、自分たちにできることで考えていこうという気持ちで一致団結しました。

テーマを決める。分担して調査を進める。パワーポイントを用いて説明する。やることはたくさんあるけれど、一人一人の力を信じて、やれるところまでやってみよう。

この探求活動で、いわき市・浜通り地区のことを少しでも皆さんに知ってもらいたいという気持ちで自分たちの地域の課題に向き合いました。過去の活動も紹介しています。



「元気なシン浜通り！」

①ふくしま海ごみ削減プロジェクト

以下の関連行事に参加しました！

- (1) スポGOMI@イオンモール(R4.6.12)
- (2) スポGOMI甲子園福島県大会(R4.10.18)
- (3) スポGOMI甲子園全国大会(R4.12.26)
- (4) いわき駅前等清掃活動(R5.1/14・29, 3/11)
- (5) 海ごみゼロウォーク県内一斉清掃活動(R5.6.4)



いわき駅前近



塩屋崎灯台

活動の詳細 ② いわきサンシャインマラソンボランティア



いわき小名浜

③ 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業



③ 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、福島県浜通り地域は甚大な被害を受けました。ほかの太平洋沿岸地域と違うのは浜通りには「東京電力第一発電所」があり、それが水素爆発を起こしたという事実です。地震・津波の被害に加え、浜通りでは原子力災害も発生し、世界でも類を見ない複合災害を経験しました。

大震災から12年たった今、浜通りの復興・再生の歩みを学び、知ることによって私たちの地域にある課題に向き合い、解決策を考え、それを伝えることが大切だと考えました。

私たちは福島県双葉町にある「東日本大震災・原子力災害伝承館」で研修を受け、さらに「いわき震災伝承みらい館」から講師を招き、いわきの復興について話を聞きました。浜通りの生き生きとした未来のために私たちにできることを考え、実行します。



いわき総合高校
JRCインターアクト部
げんきな浜通り

東日本大震災・原子力災害伝承館

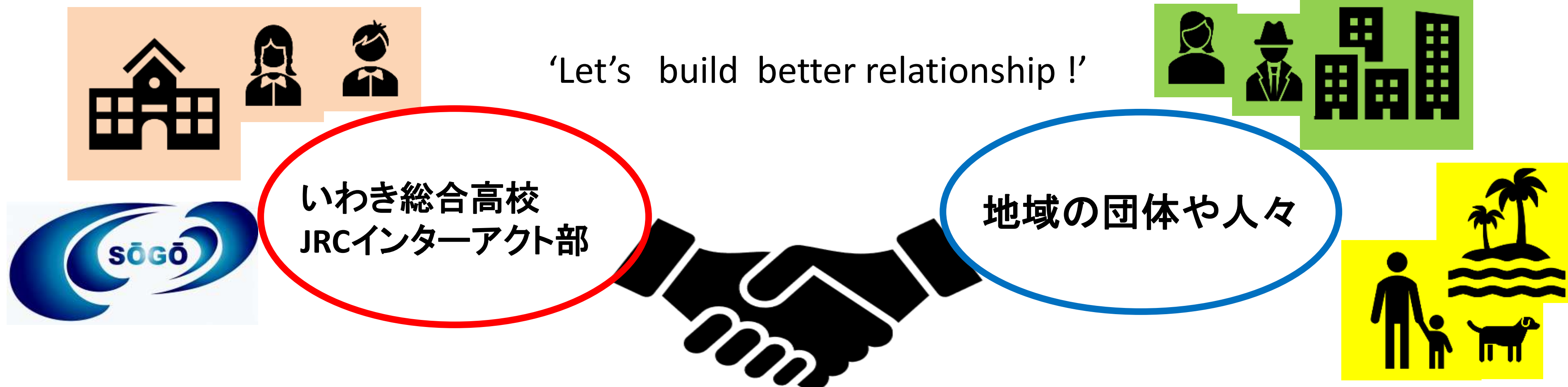


「連携・協働」

今後の展望・夢など

同じ目標に向かって、仲間であっても知らない人同士であっても、お互いに協力し合い、一緒に活動することが大切だと考えています。

NPO法人やボランティア団体、市役所、保健所・警察などの公的機関、ラジオ・テレビ局や新聞社、障害者や高齢者施設、病院や児童福祉施設、地域の大学や小中学校、ショッピングモールやスーパー、県内外の他校の生徒やインターアクト、ロータリアン、外国の人々など、様々な場面で地域活性や友好を深めるために、今後も「連携」と「協働」を実現していきます。



活動団体プロフィール

いわき内郷ロータリークラブが提唱し、本校にインターアクトクラブが認証されたから、今年で18年目を迎えました。現在、福島県内には中・高合わせて22校のインターアクトクラブが存在しています。その11番目に創設されたのがいわき総合高校インターアクト部です。JRCの活動も同時に行っているため、本校では「JRCインターアクト部」という名称で活動しています。「普通の高校生にもできる身近な奉仕・気軽に行ける地域貢献」をモットーに、地域でのボランティア活動を「イベント」としてとらえ、仲間とともに楽しみながら、主体的に活動しています。「自分たちで考える」「アイデアを共有する」「すぐ行動に移す」これらができるように、部員みんなで頑張っています！今年1年生が12名も入部し、ますます気合が入っています。